

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0176

(注)本稿は 2011 年 4 月 16 日～4 月 21 日まで3回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2011. 4. 22

前田 高行

MENA(中東・北アフリカ)22カ国の IT ネットワーク整備指数(2010-2011 年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その17)

<u>目次</u>	<u>頁</u>
1. 「The Network Readiness Index」について	1
2. 今回の順位 MENA トップはイスラエル	2
3. 分野別に見る各国の状況	3
4. UAE、サウジアラビア、トルコ、イスラエル4カ国と日米の比較(レーダーチャート)	5
5. 過去4年(08年～11年)の比較	5

東はアフガニスタンから西はモーリタニアまでの MENA(中東・北アフリカ)22カ国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。

第17回のランキングは、「世界経済フォーラム(World Economic Forum, 略称 WEF)」が毎年発表する「The Global Information Technology Report」(*)の中から「The Network Readiness Index 2010-11」について MENA 諸国をとりあげて比較しました。

* ホームページ: <http://reports.weforum.org/global-information-technology-report/>

1. 「The Network Readiness Index」について

「The Network Readiness Index」(IT ネットワーク整備指数、以下 NRI)は、毎冬スイスで開催される「ダボス会議」の主催者として世界に名を知られている「世界経済フォーラム(World Economic Forum, 略称 WEF)」が作成したものである。WEF では毎年「The Global Information Technology Report」を発表しており、その中で IT の整備状況に関する各国の競争力を Index(指数)としてランク付けしている。今回の 2010-2011 年レポートでは世界138カ国がランク付けの対象となっている。

Index は(1)Environment (IT ネットワークの市場、政治・法律制度及びインフラの整備状況)、

(2)Readiness (IT ネットワークに対する個人・企業及び政府部門の適応状況) 及び(3)Usage (個人・企業及び政府部門における IT ネットワークの利用状況)の三つのサブ分野で構成され、また三つのサブ分野についてそれぞれ3項目を評価対象としている。そしてこれら合計9項目について各国毎に評価し、それらを総合した指数(NRI)により138カ国をランク付けしている。

サブ分野とそれぞれの評価項目

(1) Environment Sub Index(環境整備状況のサブ指数)

Market environment(市場環境)

Political and regulatory environment(政治・制度環境)

Infrastructure environment(インフラ整備環境)

(2) Readiness Sub Index(アクセス利便性のサブ指数)

Individual readiness(個人の利便性の状況)

Business readiness(産業界の利便性の状況)

Government readiness(政府の利便性の状況)

(3) Usage Sub Index(利用状況のサブ指数)

Individual usage(個人の利用状況)

Business usage(産業界の利用状況)

Government usage(政府の利用状況)

2. 今回の順位 MENA トップはイスラエル

今年度のレポートでランク付けの対象となった国の数は138カ国であるが、そのうち MENA は18カ国である。昨年の 16 カ国に加え今回はイラン及びレバノンの 2 カ国が新たにランク付けの対象となった。MENA22カ国のうちランク付けされた国とされていない国は下記の通り。

ランク付けされた国(18カ国):

イスラエル、UAE、カタール、バーレーン、チュニジア、サウジアラビア、ヨルダン、オマーン、クウェイト、トルコ、エジプト、モロッコ、シリア、リビア、アルジェリア、モーリタニア、イラン、レバノン

ランク付けされていない国(4カ国):

アフガニスタン、イラク、スーダン、イエメン

18ヶ国のランクは「IT ネットワーク整備サブ指数世界ランク,2010-2011 ([http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-17aNRI2010-11\(table\).pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-17aNRI2010-11(table).pdf))」のとおりであるが、MENA 諸国の中で NRI が最も高いのはイスラエルである。同国は世界ランク22位であり、これに続く MENA 第2位は UAE(世界24位)、第3位カタール(同25位)であり、これら3カ国の順位は日本(同19位)よりやや低いがいずれも世界20位台前半でありかなり水準が高い。

第4位から8位までにはバーレーン(世界30位)、サウジアラビア(同33位)、チュニジア(同35位)、オマーン(同41位)及びヨルダン(同50位)が並んでおり、これら MENA 上位8カ国は全世界138カ

国の上位グループに入っている。

MENA9位以下はトルコ(世界71位)、エジプト(同74位)、クウェイト(同75位)、モロッコ(同83位)、レバノン(同95位)までが世界100位以内である。世界100位以下はイラン(101位)、アルジェリア(117位)、シリア(124位)、リビア(126位)、モーリタニア(130位)と続いている。

MENA 上位5カ国のうちイスラエルを除く4カ国(UAE、カタール、バーレーン及びサウジアラビア)はいずれも湾岸 GCC 諸国である。GCC にはこのほかオマーン及びクウェイトがあるが、このうちオマーンは世界41位で上位グループに入っているが、クウェイトは世界75位であり、GCC の中では極めて低い評価が下されている。クウェイトは国土も人口もさほど大きくなく、それでいて産油国として財政が豊かであるにも関わらず同じような UAE やカタールに比べて IT ネットワークの整備が遅れていると判定されたのは奇異であると同時に大きな問題をはらんでいると言えそうである。

なお MENA18カ国の世界平均順位は70位であり全体としてはほぼ世界平均の水準にある。

3. 分野別に見る各国の状況

NRI を構成する9つのサブ指数(上記1参照)について、MENA 諸国の概要を見ると以下の通りである(詳細は「IT ネットワーク整備サブ指数世界ランク 2010-2011 ([http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-17b%20NRI%20sub%20index\(table\).pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-17b%20NRI%20sub%20index(table).pdf))」参照)。

(1) Market environment(市場環境)

この分野のトップはバーレーン(世界ランク9位)であり、第2位のカタール(同10位)と合わせて2カ国が世界のトップテンに入っている。以下 UAE(同18位)、サウジアラビア(同19位)と GCC 諸国が MENA の上位4カ国を占めている。これに次ぐのがイスラエル(同21位)、オマーン(同31位)、クウェイト(同44位)である。16カ国の世界平均順位は64位。

(2) Political and regulatory environment(政治・制度環境)

政治・制度環境分野では総合 MENA5位のサウジアラビアがトップで世界順位は25位である。これに続くのがカタール(世界30位)、UAE(同34位)、イスラエル(同36位)、バーレーン(同38位)が30位台にひしめいている。18カ国の世界平均順位は70位。

(3) Infrastructure environment(インフラ整備環境)

インフラ環境が MENA 諸国で最も整っているのはイスラエルであり、同国は世界順位24位である。これに続くのが UAE(世界28位)、カタール(35位)、バーレーン(41位)であり、総合順位と同じである。バーレーン以下は、クウェイト(世界49位)、サウジアラビア(同54位)、チュニジア(同57位)、トルコ(同60位)である。クウェイトは総合順位が世界75位で MENA18カ国中の11位であるが、このサブ指標は MENA5位と高い。18カ国の世界平均順位は66位。

(4) Individual readiness(個人の利便性の状況)

この分野では UAE がトップで世界ランク5位と健闘している。これに続くのがカタール(世界10位)である。MENA 総合2位のイスラエルはこの分野では MENA9位、世界43位と評価が低く、レバノン(世界32位)、サウジアラビア(同34位)、ヨルダン(同35位)など周辺国よりも低い。18カ国の世界平均順位は56位であり、MENA各国は本指標の世界ランクが高い。

(5) Business readiness(産業界の利便性の状況)

産業界のアクセス状況についてはイスラエルが世界11位でありMENA 諸国の中でも際立って高いランクである。以下第2位カタール(世界21位)、第3位UAE(同24位)が世界20位台であり、チュニジア(同37位)、サウジアラビア(同38位)、レバノン(同44位)と続いている。レバノンは総合順位では世界95位、MENA13位の下位にとどまっているが、前項の個人の利便性(世界32位)と本指標のランクは高い。一方バーレーン(世界67位)、クウェイト(同128位)はそれぞれの総合世界ランクが30位、75位に比べこの分野が遅れている。因みに18カ国の世界平均順位は80位であり、MENA 全体としては産業界の利便性が世界平均を下回っている。

(6) Government readiness(政府の利便性の状況)

カタール及び UAE はこのサブ指数で世界2位と3位を占めておりランクが極めて高い。さらにチュニジアは世界6位であり、MENA の3カ国がベストテンに入っている。この分野では一般にMENA 各国の世界順位は高く、サウジアラビア世界12位、オマーン同13位、バーレーン同14位などが高い評価を受けている。MENA総合1位、世界22位のイスラエルはこの指標はMENA7位、世界41位の低位に甘んじている。18カ国の世界平均順位は63位。

利便性について上記(4)個人、(5)産業界と(6)政府を比較すると、MENA の多くの国は個人と政府の利便性の順位が高いのに対し、産業界が全般的に低い。例えば UAE の場合個人、産業界、政府それぞれの世界順位は5位、24位、3位であり、カタールは10位、21位、2位、バーレーンは15位、67位及び14位である。

(7) Individual usage(個人の利用状況)

個人の利用状況のMENAランク1位はイスラエルで、同国の世界ランクは20位である。2位以下はUAE(世界21位)、カタール(同28位)、バーレーン(同29位)、サウジアラビア(同40位)、オマーン(同48位)、クウェイト(同57位)となっている。2位から7位までは全てGCC6カ国で占められている。18カ国の世界平均順位は68位でほぼ世界の中位クラスである。

(8) Business usage(産業界の利用状況)

この分野ではイスラエル(世界ランク9位)がトップである。2位は UAE であるが、同国の世界ランクは39位であり1位のイスラエルとはかなりの開きがある。3位以下はカタール(世界42位)、チュニジア(同43位)、サウジアラビア(同44位)が世界40位台であり、オマーン(同56位)、バーレーン(同58位)、トルコ(同61位)がこれに続いている。18カ国の世界平均順位は79位。

(9) Government usage(政府の利用状況)

MENA 各国政府の利用状況のトップはバーレーン(世界ランク8位)であり、2位のチュニジア(同27位)、3位イスラエル(同28位)を大きく引き離している。これらについてヨルダン(同33位)、カタール(37位)、エジプト(同39位)が世界ランク30位台に入っている。18カ国の世界平均順位は69位であり、利用状況から見ると個人の平均68位よりも低い、産業界の79位より高い。このことから MENA では産業界の IT ネットワーク利用状況が個人或いは政府に比べ低いと言える。

4. UAE、サウジアラビア、トルコ、イスラエル4カ国と日米の比較(レーダーチャート)

(参照<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-17dSubIndexByCountry.pdf>)

イスラエル(総合順位22位)、UAE(同24位)、サウジアラビア(同33位)及びトルコ(同71位)と日本、米国(同19位及び5位)の6カ国について分野別の順位をレーダーチャートとして比較すると以下の通りであった。なおレーダーチャートは最も外側が世界順位1位であり内側の中心は100位である。そして最上段の Overall が全体の世界順位であり、時計回りの1から9までは前項3の分野別順位に対応している。

6カ国のチャート図比べると米国は円形が大きな広がりを示している。これは全ての項目において高い順位を獲得していることを示している。一方トルコは円形がいびつでしかも小さい。即ち同国はいずれの項目でも国際順位が低く、また項目によって順位に大きな差があることが分かる。特に個人と企業のアクセス利便性(項目 No.4, 5)の世界順位が他の項目に比べて著しく低い。

UAE は半数以上の項目が世界30位以上であり米国に似た円形に近い形状である。UAE の場合はトルコと対照的にアクセス利便性(項目 No.4, 5, 6)の順位が高く特に政府の利便性(項目 No.6)は米国をしのぎ世界3位である。サウジアラビアの場合は政府の利便性が世界12位であり、また市場環境(No.1)及び政治・制度環境(No.2)は20位前後であるが、利用状況は個人、産業界、政府ともに40～50位台である。このことから同国はIT 環境及びその利便性が進んでいるにもかかわらず利用状況が低調であることを示している。イスラエルの場合、環境整備の状況(項目1, 2, 3)はUAE と似ているが、政府の利便性及び利用状況(項目 No.6, 9)が低い。

日本は総合順位19位であるが、項目によって世界順位に大きなばらつきがある。即ち産業界の利用状況(項目 No.8)が世界3位のトップレベルにあるが、環境整備状況(項目 No.1, 2, 3)、個人・政府機関の利用状況(項目 No.7, 9)などは14～30位台であり、個人の利便性(No.4)は世界80位で他の項目に比べ大きく見劣りがする。

5. 過去4年(08年～11年)の比較

(図[http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-17cNRI2008-11\(graph\).pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-17cNRI2008-11(graph).pdf) 参照)

イスラエル、UAE、バーレーン、サウジアラビア、トルコ、エジプトの6カ国及び MENA 平均の2008年から2011年までの世界ランクの推移を比較すると、かつてはイスラエルと UAE の2カ国が MENA 諸国では飛び抜けて高いランクであった。しかしイスラエルは08年から10年まで3年連続してランクを落とし(11年は若干回復)、また UAE のランクが停滞(29位→27位→23位→22位)す

る間に、2008年に45位と48位であったバーレーン及びサウジアラビアが毎年ランクを上げた。その結果2011年にはイスラエル22位、UAE24位、バーレーン30位、サウジアラビア33位と4カ国が肩を並べる状況になっている。

一方、2008年にはバーレーン、サウジアラビアよりやや劣る程度であったトルコ(55位)とエジプト(63位)はその後順位を大きく下げ2011年にはそれぞれ71位及び74位にとどまっている。石油価格の高騰により財政的な余裕が生まれたバーレーン、サウジアラビアなどの湾岸諸国でITネットワークが急速に整備されたのに対して、非産油国のトルコ及びエジプトはむしろ経済が停滞しITの整備及び利用が遅れたものと考えられる。

MENAの平均的な順位は、59位(08年)→61位(09年)→63位(10年)→70位(11年)と年々下がっている。調査国数がこの間に増加しているため(127か国→134か国→133か国→138か国)必ずしも正確な比較はできないが、MENA地域全体としては停滞していると言ってよいであろう。上述のようにUAEが高位を維持し、サウジアラビアなどは毎年順位を上げている中でMENAの平均世界順位が停滞もしくは下落していることは、MENA諸国における格差が広がっていることを示唆している。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp